

2020年7月7日

公益財団法人かながわトラストみどり財団様助成事業
『かなユリ・チャレンジ』プロジェクト

(社福)進和学園 & (株)研進

球根3粒を植え付け3年連続で発芽し、その内、2本の苗木に蕾が付いたこと既に報告の通りです。当初、大きな株(約130cm)には3個の蕾が付き楽しみにしていましたが、6月下旬に1個が欠落してしまいました。原因は不明です。次の株(樹高70cm)には1個の蕾があり、合計3個の蕾が生長を続けています。

ところが、最近、蕾のすぐ下部の茎の部分に白いアオバハゴロモの幼虫が付着するようになりました。茎から樹液を吸って植木に悪影響を及ぼします。昨年も付着しましたが、頻りに追い払い手で取り除いて凌ぎ、開花に至りました。今年は、新型コロナ対策でスタッフがテレワークを導入したため、害虫の除去の頻度が落ちており影響を受け易くなっていると懸念されます。

そこで、一般的な薬剤であるオルトラン粒剤を利用して様子を見ることとしました。

【球根からの栽培3年目／蕾3個が生長中、害虫が付着し薬剤を投与！】



写真左：一番大きな株(樹高130cm)は、蕾が1個欠落して2個に減った。蕾の近くに白いアオバハゴロモの幼虫が認められる。手を近づけると素早く跳ねて逃げてしまう。暫く時間が経過すると再び付着するようになる。

写真中：2番目の株(樹高70cm)の蕾の下部にも同じアオバハゴロモの幼虫が付着している。



苗木の根本にオルトラン粒剤を散布した。薬剤を含んだ樹液を吸った害虫は駆除される筈だが？果たして効果は？



害虫を取り除いた状態 (撮影2020年7月7日)

以上